

2024年度 北海道大学大学院
文学院修士課程入学試験（後期）

試験区分	☒ 一般入試 ☐ 外国人留学生特別入試 ☒ 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	専門試験（ 欧米文学 ）
出題の意図	欧米文学科目の問題は、英米・英語圏文学、フランス文学、ロシア文学および西洋古典学（ギリシア語・ラテン語）の各分野から出題されている。出題の意図は、修士課程の標準修業年限内に修士論文を提出するための前提条件を満たしているかどうかを問うものである。具体的には、それぞれの分野における基本的な文学史・文学理論などに関する知識、および欧文（英語、フランス語、ロシア語、ギリシア語、ラテン語）文献の読解力を判定する。

2024年度
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（後期）
（専門試験） 欧米文学 全9枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 9枚、解答用紙 2枚を配付する。

解答における注意

（専門試験）欧米文学の出題範囲は、英米・英語圏文学、フランス文学、ロシア文学、西洋古典学です。志望する分野に応じた出題範囲の問題を選択し、その設問Ⅰと設問Ⅱに答えてください。

解答用紙は2枚あります。それぞれの解答用紙の回答欄の1行目左に、出題範囲と設問番号を記入してください。各設問は別の解答用紙を使ってください。

出題範囲・設問・ページ

英米・英語圏文学	設問Ⅰ・設問Ⅱ	2～3
フランス文学	設問Ⅰ・設問Ⅱ	4～5
ロシア文学	設問Ⅰ・設問Ⅱ	6～7
西洋古典学	設問Ⅰ・設問Ⅱ	8～9

[英米・英語圏文学] 設問 I

Choose two literary expressions out of “anachronism”, “canon”, “intersectionality”, and “monologue” and then discuss each term separately. Where does it come from? How does it work? Has its function changed? Demonstrate your understanding of each term, first by its original definition and then by its current use in English literature. Make sure you explain its characteristics by referring to at least two literary texts in order to effectively prove your idea(s).

On the first literary term of your choice, please write the essay in Japanese, though you may refer to the texts' titles and term(s) in English. The essay on the second literary term you choose has to be written in English. You may write as much as you wish within the given time.

[英米・英語圏文学] 設問 II

次の英文を和訳せよ。

＊ 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典: Adam Grant, "That Numbness You're Feeling? There's a Word for It." *The New York Times*, January 1, 2024.

[フランス文学] 設問 I

以下のフランス語の文章をすべて和訳しなさい。

- * 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の
出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典：Kamel Daoud, *Meursault, contre-enquête*, Actes Sud, 2013, p.11.

〔フランス文学〕 設問 II

以下のフランス語の文章をすべて和訳しなさい。

- * 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の
出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典：Patrick Modiano, « Conférence Nobel » :

<https://www.nobelprize.org/prizes/literature/2014/modiano/25249-conference-nobel/>

2024年度
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（後期）
（専門試験） 欧米文学 全9枚のうち6枚目

〔ロシア文学〕 設問Ⅰ

次にあげる人物のうち一人について、その文学史上の意義を含めて説明しなさい。

1. М. Горький (1868-1936)
2. А. П. Чехов (1860-1904)
3. А. Белый (1880-1934)
4. Н. А. Островский (1904-36)
5. М. М. Зощенко (1894-1958)

〔ロシア文学〕 設問Ⅱ

次の文を日本語に訳しなさい。

- * 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、
下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典：Толстой, Н. И. Очерки славянского язычества М.: Индрик, 2003. С. 10.

[西洋古典学] 設問 I

次の文を日本語に訳せ。また、この著者及び著作について、知るところをなるべく詳細に述べよ。

Καὶ πρῶτόν γε ἐκεῖνο ἡλίκον ἀμαρτάνουσιν ἐπισκοπήσωμεν· ἀμελήσαντες γὰρ οἱ πολλοὶ αὐτῶν τοῦ ἱστορεῖν τὰ γεγενημένα τοῖς ἐπαίνοις ἀρχόντων καὶ στρατηγῶν ἐνδιατρίβουσιν τοὺς μὲν οἰκείους ἐς ὕψος αἴρουτες τοὺς πολεμίους δὲ πέρα τοῦ μετρίου καταρρίπτοντες ἀγνοοῦντες ὥς οὐ στενῶ τῷ ἰσθμῷ διώρισται καὶ διατετείχισται ἡ ἱστορία πρὸς τὸ ἐγκώμιον, ἀλλὰ τι μέγα τείχος ἐν μέσῳ ἐστὶν αὐτῶν καὶ τὸ τῶν μουσικῶν δὴ τοῦτο, δις διὰ πασῶν ἐστὶ πρὸς ἄλληλα - εἴ γε τῷ μὲν ἐγκωμιάζοντι μόνου ἐνὸς μέλει, ὅπως οὖν ἐπαινεῖσαι καὶ εὐφρᾶναι τὸν ἐπαινούμενον, καὶ εἰ ψευσαμένῳ ὑπάρχει τυχεῖν τοῦ τέλους, ὀλίγον ἂν φροντίσειεν. ἡ δὲ οὐκ ἂν τι ψεῦδος ἐμπεσὸν ἡ ἱστορία, οὐδὲ ἀκαριαῖον ἀνάσχοιτο, οὐ μᾶλλον ἢ τὴν ἀρτηρίαν ἱατρῶν παῖδες φασὶ τὴν τραχείαν παραδέξασθαι ἂν τι ἐς αὐτὴν καταποθέν.

Lucianus, *Quo modo historia conscribenda sit*, 7

註：

- δις διὰ πασῶν ἐστὶ πρὸς ἄλληλα 「お互いに対して2 オクターヴ [離れて] いる」
- ἀκαριαῖος 「つかの間の」
- ἀρτηρία 「気管」

〔西洋古典学〕 設問Ⅱ

次の文を日本語に訳せ。また、この著者及び著作について、知るところをなるべく詳細に述べよ。

At ne cui dubium omnino sit et impudicitiae et adulteriorum flagrasse infamia, Curio pater quadam eum oratione “omnium mulierum virum et omnium virorum mulierem” appellat. Vini parcissimum ne inimici quidem negaverunt. Marci Catonis est: “unum ex omnibus Caesarem ad evertendam rem publicam sobrium accessisse.” Nam circa victum Gaius Oppius adeo indifferentem docet, ut quondam ab hospite conditum oleum pro viridi adpositum aspernantibus ceteris solum etiam largius appetisse scribat, ne hospitem aut neglegentiae aut rusticitatis videretur arguere.

Suetonius, *Iulius*, 52-53

註：

- aspernor 「はねのける」
- arguo 「とがめる」